

# 小児手術時に保護者同伴入室を導入した効果

吉田 るみ, 斎藤 恵子, 木村 千春, 高崎 美佳, 佐藤 貴子

北海道社会保険病院 手術中央材料

Key Words :

小児手術・保護者同伴入室

## 要 旨

当手術室では、平成16年 5月より、小児手術時の保護者同伴入室を導入している。今回、導入による患児と保護者への影響と効果、今後の課題を明らかにした。

導入前と比較し導入後は、泣かずに麻酔導入できる患児が多くなる結果となった。導入前に泣いた患児の半数は保護者との分離時に泣いており、小児にとって分離不安は強く、保護者同伴にすることで不安の軽減に繋がっていると思われる。

アンケート結果では保護者から「同伴入室を行って良かった」という回答が100%で、同伴入室は効果があった。しかし、保護者が麻酔をかけられる児を見て泣いてしまったことがあり、同伴入室をすることにより、保護者の不安を助長させる場合もある。また、児が大勢の大人に取り囲まれて怖がっていたという意見も聞かれ、患児にとって緊張や恐怖感を与えない環境作りや、保護者の気持ちをくみとり接する看護が必要なことを明らかにできた。

## はじめに

小児手術時の保護者同伴入室が不安の軽減に有効であることは、先行文献により明らかとなっている。H病院では、手術前日に行われている術前診察時、麻酔医と担当看護師が患児と顔を合わせ、コミュニケーションを取り、手術当日は患児に好きな玩具を持参してもらったり、マスクにいちごやメロン等のエッセンスを塗布、また、部屋にぬいぐるみを置くなどして、患児の不安軽減に努めてきた。しかし、手術室入口で保護者との分離時に泣いたり、入室を嫌がる患児が多く、その様子を見た保護者も泣いてしまうことがあった。

そのため、平成16年 5月より、小児手術時の保護者同伴入室を導入した。導入における患児と保護者への影響と効果、今後の課題を明らかにする。

## 方 法

期間：平成15年 5月～平成17年 4月

方法：調査研究

調査内容：

- ①導入前後における泣いた、又は抵抗のあった患児数の調査
- ②平成16年 8月～平成17年 3月まで、保護者同伴入室を体験し、同意の得られた保護者に無記名でアンケート調査

## 結 果

保護者には術前診察時に同伴入室を行うことを説明し、当日は手術室入口でガウン・スリッパ・帽子を着用していただき、患児と手つなぎ又は保護者が抱っこで入室した。保護者が側で見守る中、吸入麻酔を用いて導入し、入眠後看護師が保護者に付き添い、保護者が退室するという方法で行った。

保護者同伴入室の導入前（平成15年 5月から平成16年 3月）の小児手術患者131人中、泣いたまたは嫌がるなど抵抗のあった患児は、42人（32%）であった（図1）。

保護者同伴入室導入後（平成16年 8月から平成17

年3月)は、小児手術患者114人中93人が同伴入室をおこなった。患児が泣かずに麻酔導入できた患児は、67人(72%)であった。泣いて入室した患児は26人(28%)であったが、そのうち5人(5%)は保護者になだめてもらい、麻酔導入時には泣き止んでいた(図2)。

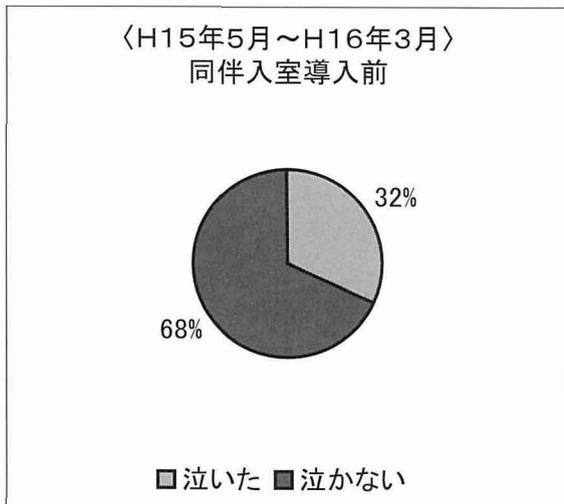


図1 入室時の患児の反応(導入前)

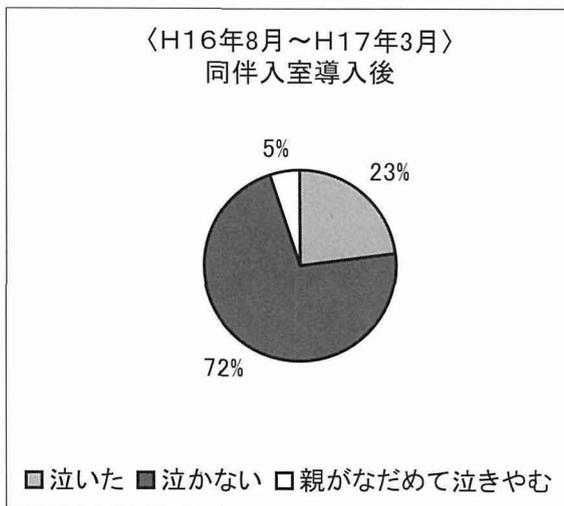


図2 入室時の患児の反応(導入後)

同伴入室をした保護者55人からアンケートを回収することができたが、そのうち、「同伴入室を行って良かった」という回答が100%であった。「子供が麻酔を受ける様子が確認できてよかった(46人)」「子供の不安を軽くすることができた(46人)」「どのような環境で手術を受けているかわかりよかった(46人)」「自分が安心できた(27人)」という意見が聞かれた。しかし、その他の意見では「子供の顔をみたら泣きそうになった」、「自分が緊張した」、「初めての経験で戸惑った」、「子供が安心できるような音

楽があるともっといいと思う」という保護者の意見もあった。

## 考 察

保護者同伴入室を導入する前、患児は手術室の入口で保護者と離れ、手術室看護師、麻酔医とともに手術室へ入室していた。そのため患児は、保護者と離れることや手術室という未知な場所・人に対して恐怖心が高まり、泣いたり抵抗したまま麻酔導入をすることがあった。手術を受ける小児の不安は、発達段階によって異なる。新生児期から乳児前期では、母親との分離不安はないが乳児後期から幼児前期になると分離不安が現れるようになり、何をされるかわからない不安・見慣れない人や場所に対する不安が出現する。また、幼児後期から学童前期になると、ある程度状況がわかるため、何が起るかわからない、どうなるのかという不安が出現する、と言われている。今回の調査期間では、患児の年齢層が3歳から5歳が多く(全体の45%を占める)、発達段階的にも特に分離不安や慣れない環境・人への不安が強かったと思われる。

同伴入室導入後、患児は手術室入口で不安そうな表情をすることがあっても、保護者と一緒である事を伝え、比較的機嫌よく入室できることが多かった。また、入室後、怖がってなかなかベッドに臥床できない患児もいたが、保護者になだめられたり、「お母さん(お父さん)も一緒にいるよ。」など保護者が患児の側についていることを伝え、自ら臥床できたり、どうしても臥床を嫌がる患児は保護者に抱っこしてもらいながら導入することができた。鈴木ら<sup>1)</sup>が、「子供の泣き始めるのは、母親と離れる時が一番多い」と報告していることから、同伴入室によって麻酔導入時まで、保護者が患児のそばに付き添って声を掛けたり触れていることが、患児の恐怖心や不安を軽減させることにつながったと思われる。

保護者のアンケートからは、同伴入室をして良かったという回答が100%であった。同伴入室の際に、大半の保護者は、自ら患児と手をつないで歩いたり、抱っこする、声を掛けあやすなどの行動をとっていた。同伴入室をして良かった理由として、「麻酔をする様子がわかってよかった」、「子供の様子を見るこ

とができた」、「子供の不安を軽くできた」というものが多かった。ある保護者からは、「子供と同じ体験をして親として良かった」という感想があった。このことから、保護者は同伴入室により、患児と同じ体験をする共有感が得られる。また、保護者から、「子供も不安でしたが、親と一緒にという事で落ち着いて麻酔を受けられました。」という意見もあった。保護者は患児のために何かしてあげたいという役割意識を持っているため、同伴入室し自分が関わり、患児が泣かずに親の側で安心した状態で麻酔導入できたことで、保護者としての役割を發揮できたと感じることができ、保護者にとっても同伴入室は有効と思われる。

保護者からは、「自分が緊張した」「子供の様子を見ていたら泣きそうになった」という感想もあり、実際に患児が麻酔導入されている様子を見て、泣き出してしまう保護者も何例か見られた。手術室という環境は、患児だけでなく保護者にも未知な場所のため、緊張や不安が生じるうえに、自分の子供が麻酔を受けている様子を見て、かえって不安を助長させる場合もある。このため、医療者側が、一方的に同伴入室を保護者に依頼するのではなく、手術室の様子や麻酔の方法、麻酔によって起こる現象（麻酔導入時の興奮期）などを、保護者にわかりやすく説明し、保護者が同伴入室を希望するかどうかを選択できることが必要である。また、同伴入室時は、患児だけでなく保護者にも安心できるような声かけを行い、患児に行われている処置の説明や、保護者が患児とよい関わりが持てるよう働きかける事が大切である。保護者から、「麻酔が効くまでの間は、大勢で囲まないほうが良い」、「大人に囲まれ怖がっていたようだ」という意見を頂いた。私達は、患児の安全のため、ベッドからの転落など危険のないようにベッド周囲に取り囲んでいた。この貴重な意見を頂いた時、見慣れない環境の中、患児がベッドに横になった状態で見上げて見えるものが、マスクと帽子をつけた見知らぬ大勢の大人であった時、いくら保護

者がついていても恐怖感が生じてしまうのは当たり前前の事であると反省した。そこで、現在は、患児の状態にもよるが、麻酔導入時は看護師2名と麻酔医、執刀医の4名が患児と保護者に付き添い、圧迫感を与えないように配慮し、患児と保護者が安心して麻酔を受けられるよう努めている。

### 結 論

- ① 保護者同伴入室は、患児の分離不安に対し有効である。
- ② 保護者にとっても同伴入室は、自分の関わりにより患児の不安が軽減されたと感じる事ができ、有効である。
- ③ 患児にとって緊張や恐怖心を与えない環境作りや、保護者の気持ちをくみとり接する看護が重要である。

### 引用・参考文献

- 1) 鈴木智香子、他：母親同伴麻酔での小児麻酔導入の検討. 第25回小児看護学会小児分科会収録, 日本看護協会出版：135-137, 1994
- 2) 佐藤朝美、他：全身麻酔で手術を受ける小児の術前看護. 小児看護, 27(3)：1740-1747, 2004
- 3) 藤本直美、他：手術室入室に伴う児の母子分離不安軽減のための母親への関わり. 手術医学, 23(4)：401-403, 2002
- 4) 長谷奈生己、他：全身麻酔手術を受ける小児の不安軽減への取組み—保護者の同伴入室を試みて—. 手術医学, 24(3)：217-219, 2003
- 5) 藤本直美、他：親子同伴入室における手術室入室から麻酔導入までの時間の検討. 手術医学, 24(3)：220-221, 2003
- 6) 山上知希、他：小児の麻酔導入における親同伴入室を試みて～親のサポートを中心に～北海道看護研究学会集録, 57-59, 2001
- 7) 松藤凡、他：親付き添い麻酔導入 (parent presence during induction of nesthesia) による母子分離不安の軽減. 手術医学, 24(3)：222-224, 2003